

2023年 4月26日

## 2022 年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名...特定非営利活動法人 みんなのそら

代表者・役職名 氏名 藤井絹枝・理事長.....

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

子育て中のママ・パパ・ばあばやじいじの応援カフェ「子育て ホットカフェ」(通称「ホットカフェ」)

### 2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2003年活動開始。転入者が急増した鶴川地区で、乳幼児を持つ母親が孤立しないよう、親子で参加できる「おもちゃのアトリエ」を任意団体としてスタート。2004年にNPO法人に承認されました。子育てアドバイザーによる「子育て講座」「親子サークル」など地域に根ざした親子支援を行ってきました。現在会員数は、50人。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

幼児を育てる若い親たちは地域の中で孤立しがちです。このコロナ禍では、子どもたちのストレスも増えています。私たちは長年の活動を通じて、子育て中の親同士が語り合い学び合うことで、子育てに安心感が持てる実感しています。「ホットカフェ」は、親たちが語り合いつながり、時には子育て経験のあるスタッフたちが親たちの話に耳を傾けて気持ちをうけとめ、リラックスできる場です。この活動を通じて、子どもたちが楽しい時間を過ごせて、少しでも親たちの気持ちが安らぐようにと考えています。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

子育て中の親子の居場所作り、「ホットカフェ」。親子で楽しめる工作や手遊び・うた遊び、絵本の読み聞かせを実施。工作はテルテル坊主、うちわ、風鈴、ツリーなど季節に合わせたテーマで行いました。今年度はコロナ感染もおさまり、9回開催することができました。また、地域とのつながりを大切にし、鶴川団地のイベントなどにも積極的に参加しました。その他、鶴川中央公園の冒険遊び場への「出前あそび会」ではネイチャーゲームを実施。薬師池公園 四季彩の杜 西園では共催企画として「学習会」「出前あそび会」を行いました。

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

結果:『ホットカフェ』9回開催。のべ参加人数は大人28人、子ども51人。

『西園共催企画』「出前あそび会」10組、27人。

「学習会:子どもの自己肯定感の育て方」大人6名。

『冒険遊び場「出前あそび会」』ネイチャーゲームと松ぼっくりツリー作り。70人ほどの親子が参加。

鶴川団地バザー(2回)、「鶴川図書館応援祭り」、「子どもも大人も遊びも町田展」に参加。

成果:常連さんが、お友達を連れて遊びに来てくれるようになり、参加者の輪が広がりました。また、スタッフに地域の子育てアドバイザーがおり、他団体との連携の要になっています。地域のイベントに参加することで、他団体とのつながりもfyかくなりました。

変化:コロナが落ち着き、参加者も増え、「みんなのそら」の活動に興味を持ってくれる人も増えました。

## 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

参加者も増え、活動の幅が広がっていると感じています。今後はみんなのそらの運営に関心を持ってくださる方を増やし、私たちの活動が長く、次の世代に続いていこうと考えていきます。また、まだ出会っていない「地域の孤立感を感じている親」に少しでも多く活動の情報を届けなくてはとも考えています。子育て中の親の支援が、虐待を防ぐことにつながり、ひいては少しでも多くの人の生きにくさの解消につながると考えています。

## 7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

